



大和中ロータリークラブ会報

TAKE TIME TO SERVE

時間を捧げよう 奉仕のために
1980-81 R.I 会長 ロルフ・J. クラリッヒ

第 130 回 例会 56 年 1 月 29 日 (木) 晴 第 136 号

出席報告

会員数	出席数	出席率	前回の修正
38名	34名	89.47%	100%
欠席者 後藤, 国方, 高橋, 保田			

亀谷会長テーマ 全人類に愛と善意を

司会 副SAA 芦田敬治君
ソングリーダー 中西 功君「奉仕の理想」

我々の RC は 55 名のメンバーが居ります。

ゲスト

西田竹次郎 (モラロジー研究所参与)

ビジター

Mr. Ed. Slater (Guymon, Oklahoma, U.S.A.)
遠藤真作君 (横浜緑), 矢部隆司君 (横浜瀬谷),
小平勝蔵君 (横浜旭), 星幸男君, 大矢晴行君,
古谷忠治君, 榎山芳久君, 黒川孝君, 今井利汎君
門松美行君, 柴田信一君, 大角浩一君 (大和),
野島幸雄君 (座間)

Guymon R.C (Oklahoma) より始めてメ
ーキャップに見えた Mr. Ed. Slater からバナ
ーを頂き, 当クラブのバナ－と交換いたしました。

Mr. Ed. Slater の挨拶 (北砂 S.A.A の通
訳による)

私はオクラホマから参りました。ニューズウイ
ークのフォトグラファーをしています。日本に來
たのは始めてで, 今日メーキャップをして皆様と
お会いしたことを大変嬉しく思っています。これ
からも時々来るかもしれませんが宜しくお願いす
す。Guymon は人口 10,000 の小さな町です。

会長報告

1. 地区大会の剰余金 ¥ 58,000 が当クラブへ返戻さ
れて参りましたのでお知らせします。尚使いだ
は, 理事会で検討させていただきます。
2. ガバナー, 米山記念奨学委員長より次の様な書
状が来ておりますのでご報告致します (回覧)。
「2月22日はロータリー創立記念日であります。
75年前のこの日始まったロータリーは目覚しい
発展をしております。今日米国に次ぐ世界第2
位のロータリー国迄成長した日本ロータリーク
ラブは米山梅吉氏が始めて, 東京に創立, 大正
10年4月1日, 世界で855番目のクラブとして
加盟承認されました。本年で60年になる訳です。
この発展の礎を築いた功労者米山梅吉氏の遺徳
をしのいで, 昭和37年財団法人ロータリー米山
記念奨学会が, 日本全国のロータリー事業とし

本日のプログラム 2月5日
クラブフォーラム「後半のクラブ奉仕委員会活動」

次週予定 2月12日
イニシエーションスピーチ 国方君, 山中君, 池田君

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

事務所 : 大和中央1-5-40
及び 大和市商工会館内
例会場 電話0462(63)7926

例会日 : 毎週木曜日12時30分より
会長 : 亀谷志郎 副会長 : 伊藤正男
幹事 : 富沢重徳 会報委員 : 有沢・長谷川・藤田

て出発致し、現在迄 1,426名に奨学金を支給し 208名の博士号取得者を出しております。この機会に三島にある財団法人米山記念館を訪問されることをおすすめ申し上げますと共に、米山奨学事業により一層の深いご理解を賜りますようお願い申し上げます。

〔米山記念館 静岡県駿東郡長泉町上土狩通〕

3. 1981年大平洋地域大会の案内が来て居ります。1981年11月26-29日、オーストラリアのメルボルンに於て開催されます。若し出席希望者がありましたら3月1日まで報告して下さい。

幹事報告

唯今、会長から米山奨学会の話があり、又去る10月2日中西会員から「米山記念奨学会」の卓話がありましたが、「準米山功労者となる寄付について」書状が来て居りますので、ご協力方再度申し上げます。(会報第121号米山記念奨学会についての卓話を参照して下さい。)

委員会報告

青少年奉仕委員会 土屋委員長

地区ガバナーより青少年交換プログラムのアンケートについて問い合わせが参りました。今日皆様にお知らせし、次回にでも回答、お考えなどお聞かせ頂きたいと思ひます。

アンケートの内容 ①あなたのクラブはスポンサークラブになって頂けますか ②あなたのクラブはホストクラブになって頂けますか ③あなたのクラブのメンバーでホストファミリーになって頂ける方がいらっしゃいますか ④ホストファミリーでも下記の条件なら受け入れが出来る方がいらっしゃいましたら具体的に名前をあげて下さい。(イ)1ヶ月位ならホストファミリーになってよい。(ロ)土曜、日曜のホスト役ならなってよい。以上のアンケートが来て居りますので次回にでもご意見をお伺ひしたいと思います。

親睦活動委員会 鈴木委員長

1. 先日家族会の申込書をお渡ししてありますが、

なるべく早く古木副委員長まで、申込書とお金を添えて申込んで下さい。

2. お祝の方、おめでとうございます。

創業記念日 布施光雄君(2月1日)

3. 親睦委員は例会後お集まり下さい。家族会のことでご相談致します。

- 3 クラブ合同親睦ゴルフ大会について 近藤会員
3クラブ合同コンペは当クラブのホストで、2月26日(木) 美容CCで行います。案内のパンフレットに申込書がついておりますので、次回の例会までに私まで申込んで下さい。

SAAより 本日の甘酒は伊藤英夫会員のご好意によるものです。ありがとうございました。又宜しく願致します。

卓話

西田竹次郎氏の紹介 猪熊会員

先生をご紹介申し上げます。先生は大阪生れでございまして、育英商業卒業、昭和5年、小西製缶所入社、昭和25年、帝国製缶(株)常務取締役、昭和34年久金属工業(株)東京工場長、昭和54年退職。現在財団法人 モラロジー研究所参与、及財団法人神奈川県経営管理センター常務理事をなさって居ります。今日は社会奉仕の基本的理念についてのお話しをお聞きすることになって居ります。ご静聴をお願い致します。

社会奉仕の基本的理念 西田竹次郎氏

社会奉仕の基本的理念という題をいただきましたが、社会奉仕をなぜやらなければならないか? その根本は何であるかということに言及致しましてお話しを申し上げたいと思ひます。

今日地球上には約34億の人類が住んでいます。そしてこれらの人類は夫々の異った気候、風土、の中で人種的に民族的に違った、又風俗、慣習の違った、国体の違った中で夫々異った日常生活をして居ります。しかし未開の民族は別として、文化に裕する民族には、その中に只一つの共通の目的があります。それは人間各自が楽しく生きていく上に自から安心、平和、幸福を望むとともに、

意義のある人生を送りたいと言う願望です。しかし社会の現実を見ますと、決して思うようにはなっていない居りません。全ての人々は、安心と平和な生活を求めて居りますが、人類の実生活では、安心は乏しく、又不安に満ちて居ります。今日の新聞紙上をにぎわす問題、又国際的紛争など悲しい問題が沢山あります。家族、会社、商店、工場、学校、官庁など、その他の諸団体のすべてに亘って、多くは内部の不統一と、不和で苦しんで居ります。幸福も、生きとし生ける人間の等しく求めて止まないものですが、不幸な人生を歩む人も多いのです。聖人の教えに「事を謀るは人に在り、事を成すは天に在り。」と言う言葉があります。いかに我々が上手に計画をたてても、自然の法則天意、宗教的に申しますと、神様、仏様の天意に叶わなければ目的は達成されません。言い換えれば、総ての人の求めているものは、財産や、地位であり、安心、平和な生活であり、しかも健康で長命で、家庭では子供や孫が立派に成長して呉れるよう希っています。そして心ある人々は社会、国家、人類の平和と福祉に寄与して意義ある人世を送りたいと願っています。しかしこれ等の希望は仲々容易に満されるべきものではありません。そこに現世の問題があり、人間は苦しんでいるのです。そこでこの人生問題を考えて見ますと、大体3つに大別することが出来ます。その一つは、事業生活、その一つは家族生活、もう一つは健康生活であります。人生は常にこの事業と、家庭と健康の3者の調和がとれて向上させることが必要なのです。多くの人々がこのバランスがとれず、苦しんでいます。そこで人生の困難に会い、苦しむ人の多くが、宗教及び信仰によって心の安らぎを求め、自分の苦悩を解決しようとして焦っている状態なのです。したがって人間のすべては、この3者が調和して向上していき品性を備えることが人生の重要な課題であります。こゝに於て我々はこの人生の問題を解決するためには只自分の狭い経験や、知識、或は自己の信念のみに頼って進むとはしないで、もっと品性を科学的に考えて、

本当に安心で平和な価値ある人生を開く品性をつくるよう努力しなければならないのです。

私は先程紹介にあったように、モラロジー財団の参与をして居りまして、私はこの人生問題をモラロジーという実践科学によって解決するように努力して居ります。「モラロジー」はこの人生の課題に答える学問なのです。即ち事業生活、家庭生活、健康生活の関係を調和し、向上するためには、いかなる道を歩めばよいかと言うことが訳るよう教えています。今日まで最も重要である人間の安心と平和を導びく実践上の精神作用、並びに行為の法則を科学的に研究する報告が無かったのです。モラロジーはこれに取り組んでいるのです。そしてこの研究は、道徳問題を中心にして、実生活を科学的に研究し、人生の進化と退化の法則を証明している学問です。言うなれば人生、実生活の重要な課題を解決する上において欠くことの出来ない学問であります。この学問は法学博士広池千九郎先生によって研究されたものですが、先生は、「モラロジーはどんな偉い世界の学者や、書物によっても知ることの出来ない学説を提供して、あなた方の精神、機能、特性も開発する力をもって居る。又モラロジーは皆さんが、どのような利益のある仕事をするよりも、いかに多忙な時間をさいても、モラロジーを聞くことは、それ以上にあなた方に多大の利益を与えるであろうと断言してもはばからない。」と語っています。そこで事業に際しキャラクターがどのように必要であるかと言うことを述べて見ます。有名な経済学者S・キルマン氏は、企業の批判につき最終的結論として4つのCがあることを忘れてはならんと戒めています。即ち1. CHARACTER(経営者の人格と品性) 2. CAPACITY(経営者の手腕と技能) 3. CAPITAL(資本即ち販売の状態) 4. CONDITION(一般経済の情勢)と論じています。何んと言っても経営の諸条件中、経営者の人格、品性が基本条件である事を説いています。物質万能の米国でも経営の第一に品性を挙げています。(手元に配布されたセンター通信の記

事一儲けるより儲かるように一を参照) 品性と言うことを簡単に申しますと、所謂、徳をつくることです。

企業が大きくなっていけばなつたで経営者もその品性を高めていかななくてはなりません。社会奉仕も同様です。やらしてもらうと言うことは、己の品性を社会に利益を還元させていただこうと言う目的なのです。有名な松下産業は年間の利益の $\frac{1}{4}$ を株主に、 $\frac{1}{4}$ を従業員に、 $\frac{1}{4}$ を今後の経営の費用に、 $\frac{1}{4}$ を社会に還元することに使っています。

どうぞ皆様もそう言う意味からも、己の城を堅めることは勿論ですが、この城に積み重ねていく品性こそ重要なものなのですから、この品性を是非培っていただきたいと思います。尚我々はなぜ社会奉仕をしなければならないかと言うことは、宗教的に申すならば、神様、仏様、又あらゆる自然から大きな借財を我々はしているのです。この借財を返済するために努力するのが奉仕の実践であります。私も最初大きな借財があると聞いたときは、どう言うことが訳りませんでした。大自然の中から、大きな借財をしていることを忘れて居りました。それはたとえばその中の空気です。空気の吸い代を払っている人はいないでしょう。しかし若し健康を害して酸素をボンベから吸うとしたら一体いくら費用が掛ると思いますか？その費用は計算出来ぬ程巨額になります。このように自然から大きな借財と又、その他太陽からの多くの恩恵など受けているわけであり、この恩恵を返済するのが道徳であり、社会に対する我々の恩返し奉仕となるのではないかと思います。どうぞこう言う意味あいで、是非とも今後このような理念に基づいてしっかりした奉仕をお願いしたいと思います。

憲法と再軍備(其の2) 弁護士 大谷季義氏

現代の憲法が出来たとき、マッカーサーが日本に現代の憲法を押しつけたと言っていることが果して本当なのだろうか？しかもそのとき何も知らぬうちに憲法が議会の手で出来、日本国民は何

も知らなかったのだと、言って居ります。しかし私はこれについて、一つの疑問を投げかけざるを得ないのです。当時の日本で、憲法がどうのこうのと言つて、日本の国民が果してそれを取りあげていろんなことを言うべき余裕などあったかどうか？私は無かったと思います。それにも拘らずあとになって憲法は押しつけられたものであると言つています。マッカーサーは「マッカーサーノート」と言うのをつけていたそうですが、この中に三原則として、日本は軍備をしないこと、天皇制はどうすべきか、国民は専主国民主権にもっていくのだと、との三つを書いており、憲法の態勢をそうもっていくのだと考えていたようです。

この中の、日本は軍備をしないと言うことは、当時マッカーサー元師が、憲法を押しつけたのでは無くて、マッカーサーに対して、世界の、大宇宙の神のひらめきが平和を日本に与えるようにさせ、マッカーサー自身の意見というよりも世界の神の意志が、マッカーサーに現在の憲法を命じたのではないかと考えます。マッカーサーは其の後、朝鮮事変では、堂々と軍隊を指揮して朝鮮に乗り込んでいます。しかも満洲を爆撃せよ、満洲を占領せよとまで言つてトルーマンとけんかまでもしたあの好戦的な彼が、日本に対して平和憲法をつくらせ、軍備は持つな、軍備こそ平和を乱すゆえんのものであると言っていることは、この憲法を日本に命じたマッカーサーをして、大宇宙に於ける平和の神が、日本にこのような憲法をつくらせたのであると、このように考えてよいのではないのでしょうか。決してマッカーサーの押しつけではなく、大宇宙の神が、驕り昂っている日本に対して日本人に、お前達は平和とはどんなものかということ、心から知らしめることを命じたのではないかと私は思っています。神の命じた憲法なのです。現に世界中どの国の憲法をみても、戦争を放棄した憲法は日本以外にはありません。私は現憲法の平和精神は将来の世界を風靡するのではないかと、そして日本は世界に先きかけて平和憲法をつくつたのだと思います。

私は今いろいろなことから、今後第三次世界大戦が起ることを予測しました。そして「さばかれるのは誰か？」と言う本を英訳してアメリカで本を出しました。この中で私は世界の平和を予言しました。どういう予言かと言いますと、「日本は世界に先きかけて、平和を主張する、しかし、この平和は、現代の憲法が続く限り恐らく永遠に、日本国は栄えなければいけない。しかし、三次の世界大戦は必ず起きそしてこの三次世界大戦の終了の後に、本当に世界の平和がおとずれるであろう、平和は阻止しようとしても阻止することは出来ない。」とそう言う予測のことを全部書き上げました。日本の歴史を繙いて歴史の中から世界の平和が必ず生れる。しかも日本が、世界に先きかけをするのだと言うことを主張しました。これは今でも正しいと信じております。必ず三次戦争は起ると思います。しかしその戦争の後に、いかに戦争がばかばかしいものであるか、そして我々人類の生活を破壊するものであるか、何の益もないものであるか、そういうことを我々は身をもって知るだろうと思います。そしてなぜ戦争をやらなければならないのか？このことにお気付きになると思います。私はこのような理由で「さばかれるのは誰か？」なる本を、カーター大統領にも送りました。カーターより手紙をいただき「大変有難う、貴方の意見は貴重な意見として、私はこれを認めます」と言う極めて丁寧な返信をいただきました。其の他にも、アメリカの著明な方からも便りがあり、「世界の平和について皆さんで努力しようではないか、我々も戦争には反対である。何んとかして戦争をしないような世の中をつくりたい。」と言うような意味の手紙も数通いただいております。又アメリカの弁護士の友人とも、意見を交換していますが、有識者は、戦争に対して極めて批判的であり、戦争は何んとかして避けなければならないと言って居ります。しかしアメリカの態勢は必ずしもそうではありません。レーガンは「強いアメリカ」などと盛んにうそおいていましたが、この頃は少し変わり「大きな西部」などと言っていますが、決して世界の態勢は理想通

りにはいかないものであると思います。だから我々日本人は、アメリカと協力を共にする友人として、共に我々は世界の平和のため貢献すべきであり、いかにすれば平和になるかと言うことを考えていただきたい。軍備をつくることによって、武力を装備することによって世界の平和をきづくのか？武力によらずして平和をきづくのか？これが別れ道です。しかし日本人は世界でも秀れた民族であると思います。なぜならば、現に第二次大戦が終ったときに、戦争をやめると言う神の声をマッカーサーが、次いで、この平和憲法を日本人はつくったではないですか！その憲法をつくって既に30数年たちました。我々、過去の戦争や、過去の日本の行動を知っているものは、今何を考えるべきであるか？それは、矢張り、憲法の平和精神にしたがい、いかにして戦争をおさえ、平和の道を歩み、世界に平和を押し進めていくかと言うことを勉強すべきだと思います。今盛んに政府は、アメリカの言いなりになって、何んでもかんでも軍備を増強せよ、アメリカの国防省は日本の軍事費が少ない、軍備も装備も足りないもっと増強するようにと言っています。しかし何を考えてそのようなことを言っているのか？日本には果して資源があるのか？燃料も鉄鉱もなく、武器を作るあらゆる資源はありません。あるのは人間と米だけです。今日本は軍備を増強させて、そしてアメリカの一環としてやるのがいかに不利なことであるか。それよりも、アメリカに対して、アジアのことはアジアの我々にまかしてほしい！と言ってはどうかと思います。しかし現実はこちらを許さないのが実情です。

だから私は、世界の平和は理想であるが、第三次世界大戦は、止む得ないものであると思います。しかしこの戦争が終るまではどうしても、日本の国は現状のまゝいくより仕方がない。もう少し私達は大人になる必要があると思います。そして日本の国全体を眺めて、いかに争いを無くして、お互いに手を握っていくか！。私はロータリーの精神は素晴らしい精神であると思います。皆さんが、仲よく、しかも睦しく楽しく話し合う、このロータ

リーの精神を世界に広めたらどうでしょう！戦争は無くなるのではないのでしょうか。にも拘わらずまだまさに戦わんとするような状態を示しております。ソ連といい、アメリカといい、お互にもう少し話し合い、お互に理解し合って戦争をやめる方向にいくべきだと思います。だが現実はありません。残念ながらワンポイントを置かない限り本当の平和は来ないと思います。そうすると、私の言うのは、本当の平和が来ないのだから戦争をやれと言うんですか？否決してそうではございません。止む得ずやるんだと言っているのです。この事は充分のご理解をしていただきたいと思ひます。そして現在の憲法、この憲法によるところの平和精神こそは、我々の生活を守る根本の精神である。これは神が法の下に国民に命じたところのものである。と強く心に入れていただきたいと思ひます。我々日本人は軽卒であってはいけません。現在の政治家達は、金と力によらなければ政治はとれないという原則のもとに動いているようですが、果してそうでしょうか？今少し考え、政治というものをよく見つめて行くべきではないでしょうか？

少ない時間で、憲法と再軍備ということのアウトラインだけを問題の提起しながら述べて来ました。問題はこれだけ提起するより他に方法が無かったのだと言うことをご理解願ひたいと思ひます。憲法、再軍備の問題こそ、我々が今、正念場ゆくり考える時ではなかろうかと思ひます。どうかロータリアンのその精神をもって、憲法と再軍備、そして世界の平和ということについて今少しご研究なさっていただき、そして我々を指導していただきたいと思ひています。かって軍服を着た一員として今このようなことを申し上げるのは僭越の限りだと思ひますが、悪しからずお許し下さい。これをもってお話しを終りたいと思ひます。

亀谷会長の挨拶—先生の腹の底から平和を願う気持をお聞きして、深い感銘をうけました。私は年頭に、「人間の本性は善であるが、社会は悪である。」とのルソーの説を述べたことがあります。私はあくまでも人間の善性を信じ、そして平和な

世界をつくるべくロータリアンは努力すべきであると、述べました。私は人間だからこそ自分の行動を善にも悪にもコントロールして行動を起すことが出来ると思ひます。そういうことを考えますと、今のお話しをお聞きして非常に考えさせられました。ロータリアンとして世界の平和のために微力ながら今後とも尽したいと思ひます。

スマイルボックス

横浜瀬谷RC 矢部会員 お世話になります。どうぞよろしく願ひ致します。

横浜旭RC 小平会員 初めてお邪魔致します。

座間RC 野島会員 新年になりました初めてお伺ひ致します。本年も宜敷願ひ致します。

大和RC 星 会員 皆さん今日は、よろしく。

大和RC 大矢会員 久しぶりにお伺ひしました。

大和RC 初山会員 昨年は色々お世話様でした本年もよろしく願ひ致します。

大和RC 黒川会員 新年始めてお世話になります。本年も相変らず宜敷願ひ致します。

大和RC 今井会員 本日もお世話になります。

大和RC 門松会員 毎回メーカーキャップさせて頂き恐縮ですが、これからもよろしく。

大和RC 柴田会員 大変お世話になります。

亀谷会長 1月25日長男の結婚式には、皆様のおたたかい祝電を頂き感謝申し上げます。

猪熊会員 西田先生お寒い中ご来席頂きまして、誠に有難うご座居ました。

布施会員 皆様に創業記念を祝って頂き感謝致します。これからも宜敷願ひ致します。

郡司会員 亀谷先生、続けて従業員がお世話になり有難うご座居ます。親切にして頂き皆、大変よろこんでおります。今後共よろしく。願ひ致します。

友好について ……

世界平和の基礎である友好は、まず国内から…人と人との間で、始められなくてはならない。そうすれば、それが国から国へと力強く広がっていくようになる。20世紀の米国の科学者バネバー・ブッシュが言っているように、「舞台は変わっても、人間の友好への願望がなくなることはない」。